

首都機能移転県民フォーラム（小山地区）開催結果の概要について

1. 日時・場所

- ・対象地域小山地区（小山市、南河内町、国分寺町、野木町）
- ・平成9年2月4日（火）午前10時～午後1時
- ・小山市「和田屋新館」

2. 参加者

- ・コーディネーター（宇都宮大学名誉教授馬場信雄氏）
- ・意見発表者（地区内市町村の各種団体等の代表）9名
- ・主催者側（県民会議幹事、事務局）12名
- ・県議会議員（地元選出）5名
- ・随行、市町村職員、一般等120名

3. 意見の概要

- 意義などに関する意見 -

- 東京一極集中による社会構造上の弊害と是正の問題は、言われて久しく、首都機能分散の必要性は、先般の阪神大震災の教訓から、大災害時の首都機能のあり方について、論を待たない状況であると考えている。
- 首都機能移転によって、経済活動に活力がもたらされ、農業、工業、商業の全般にわたる地域産業の振興に計り知れない効果もたらされ、また一面では芸術面、文化面、教育面からも大きなメリットを享受することが考えられる。
- 人口減少、高齢化が進行する中で、本県の活性化というか、教育、文化も含めての県勢発展という視点からすると、那須地域への首都機能移転は必要であると考えている。
- 首都東京の集中が集中を呼ぶというような一極集中の是正、政経分離による経済、文化都市としての東京の繁栄等、移転の必要性については、時折東京へ出向くだけでも肌を感じるものがある。
- 移転による経済効果も、大消費地が生まれることにより、県北地域は言うに及ばず、県南地域にも多大な効果をもたらすものであり、大いに歓迎すべきである。

- 課題に関する意見 -

- 首都機能移転を国家、国民的レベルの意識で受け止め、グローバルな視点から地域に与えられた課題として前向き、かつ積極的にとらえるべきであると考えている。
- 那須地域の持つ自然環境への影響を可能な限り最小限にとどめる努力、水資源の確保、緑の保全に対する配慮等により、環境共生型の都市づくりを推進してもらいたい。
- 一応県民の声を聞いたという形式だけで終わらせてもらいたくない。首都機能移転による良いところばかりでなく、問題点などについてもオープンに情報提供すべきである。住民との対話を十分にしないうちから誘致ありきはないと思う。
- 広大で貴重な那須野ヶ原の自然環境が壊されることが心配である。移転したら那須野ヶ原の姿はないと思う。風光明媚で広大な自然環境は県南にはない自慢の所である。
- 那須野ヶ原の4万から7万のうち、国有地はわずかに400haであるといった逆転の発想をするべきである。白地地区、宅地近接農地は乱開発の恐れもあり、場所を決定する前に法律整備が必要である。

- 県南でもベットタウン化により、地価の高騰、平地林の減少、コミュニティ問題、ゴミ問題等が様々な不安を抱えることになる。
- 北海道に次ぐ屈指の酪農地帯が移転により消滅するのではないかと、甚だ寂しい感じがする。
- 北関東の四万十川といわれる那珂川の清流が汚濁されるだけでなく、農業用水に限らず、すべての用水に不足が生じるのではないかと。
- 今世紀から21世紀にかけてのたった一度の遷都である以上、県民の合意は大前提である。現状では県南と県北の温度差が大きい。
- 現在の自分の生活に身近にかかわってくるわけでもないのに、全く考えたことがなかった。
- 人口増加に伴う自然環境の破壊、ごみ問題、農村環境の変化など、様々な課題に対する対応について知りたい。
- 現状では情報が少なすぎる。移転に伴う具体的なメリット、デメリットを示した上で議論すべきである。
- 誘致ありき、開発ありきの発想から抜け出していない。21世紀のまちづくりをするのにあまりにも古い発想だけで事が進められている。
- 移転によって単に自然環境が破壊されるだけでなく、歴史、風土、文化、地域の経済・産業、コミュニティ、人々の生活、それらすべてに影響が予測され、地元の人たちは心配で必死になって声をあげている状況である。
- 県南に住む者にとっては、県北に国会が来ると消費人口がすごく増える程度で、切実性が欠けていたと感じている。
- 現時点で考えられる様々な問題について、情報を出来るだけ示していけば、更に議論が深まるのではないかと考えている。
- 女性、主婦として生活に密着した視点では、日々の暮らしがどうなるのか、新住民との交流、子供たちの教育への影響、地域特性の維持等々、将来への不安と課題は山積している。
- 県民だれもが将来に悔いを残さない首都機能の移転、子供や孫の時代に本当によかったと言ってもらえるよう、現時点から、生活に根ざした議論をしていくべきではないか。
- パンフレットを見る限りでは、グリーン地帯に水がたっぷり入っている池が大きくあるが、個々に設計したものなのか疑問である。これだけの水量を確保するということが出来れば、近隣の農業に与える影響も大きいのではないかと。
- 東京都に相当な人口が集中している以上、首都機能の移転は避けられない問題であるし、那須へ来ることは悪いことではないが、皆様と共に考えて進めていくといったプロセスが重要であると考えている。
- 新首都が那須に来た場合、東京が経済・文化都市として発展していく。その交流ベルト地帯としての県南地域に与える影響などについても考えてもらいたい。

-要望に関する意見-

- 願わくば茨城、福島との共同歩調で、那須を核として首都機能の誘致を進めてもらいたい。
- 時間をかけて住民コンセンサスを得ながら、総合的な整備を進めてもらいたい。移転してからの環境整備でなく、課題解決をした上での移転であってほしい。
- 何人かの人に那須への移転について聞いてみたが、県南ということもあって関心が薄い人がほとんどである。末端の市町村単位でもフォーラムを開催していただき、より多くの方々の意見聞きながら進めてもらいたい。
- 世紀のプロジェクトである国会移転に対し、那須地域に誘致しようと県民会議が強力に運動を展開していることに理解を示す1人である。県民の1人としてぜひとも本県に誘致していただきたい。

- 那須地域ということで、この地域全体を公園の要素を備えた未来都市の建設ということで取り組んでいただきたい。だれでも親しめ、ゆとりを感じて羨望の的となるような都市づくりの実現をお願いしたい。
- 農業経営者として、農民が新しく住む人たちから追いやられないような環境づくりをお願いしたい。都市融合型農業が実現でくるような地域づくりをお願いしたい。
- 情報が断片的で十分に入っていない。賛否決定する前にもう少し情報がほしい。
- 環境アセスメントを行う場合、地元の人たち、開発される側の人たちの意見が十分に反映されるような実効性のあるアセスを保證すべきである。

-意見交換における主な意見(要旨)-

- 本県的那須ばかりでなく、茨城県、福島県などの周辺都市との連携プレーによってお互いが補完し合い、よりよい都市を建設することで誘致運動を展開することが効果的であると考えます。
- パンフレットなどを作成しても一般住民はなかなか手に入らない、したがって内容もよく判らないという話になる。例えば首都機能関連の資料が欲しいとき誰でも、いつでも出せる体制があるのか。なければ情報センターみたいなものを作っては。
- 自然環境と共生する都市をつくる、それは国家の方針だといったところで、それが保證されたわけではないので、いつの時点でどういうコンセンサスを得るのかははっきりとしてもらいたい。
- クラスター方式で開発すると虫食い状態になることが考えられるので、生態系を含めた自然の保全をお願いしたい。